



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2021年 第2号 (9月)

ニュースレター

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341 <http://www.perio.jp/>

発行人 小方頼昌 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】 春季学術大会関連のご案内 「歯周病専門医」認証に伴う申請について
認定資格申請のお知らせ 各賞・助成等の選考結果と募集 JSP/JACP ポスター賞受賞者

選ばれる学会であり続けるために



副理事長
齋藤 淳

令和3(2021)年4月に副理事長を拝命いたしました。大変光栄であり、同時に身の引き締まる思いです。小方頼昌理事長を的確にサポートすべく努めてまいりますので、何卒ご支援のほどお願いいたします。

日本歯周病学会の会員総数は、2017年に10,000名を突破し、2021年5月末時点で11,907名となりました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも順調に推移しており、会員一人ひとりの活動が、学会全体としての評価につながっていると感じています。

小方理事長の活動方針は、学会ウェブサイトやニュースレター2021年第1号に提示されていますが、要約を再掲させていただきます:1) 歯周病の予防および治療法のさらなる国民への周知, 2) 歯科医師に対する歯周治療のさらなる啓発, 3) インプラント周囲炎の予防と治療法についての見解の明示, 4) 「高齢者に対する歯周治療の指針」の作成, 5) 歯周病専門医・認定医ならびに認定歯科衛生士のメリットの再検討と地域偏在への対応, 6) 積極的な国際交流活動, 7) 研究・

臨床・教育に目を向けた若手研究者への支援の強化, 8) 中長期での学会のあり方の検討, 9) 日本歯科衛生士会との協力強化。このような方針の下、各委員会が実質的な活動を行っています。任期中に一つでも多くの目標が十分なレベルで達成できるよう、会員一丸となって課題を解決していきたいと思っています。

さて、昨今、専門医制度を取り巻く状況は変化しており、皆様も関心と不安をお持ちのことと存じます。日本歯周病学会の専門医は、その理念の一つに「日本社会において歯周病専門医としての責任と誇りを持ち、医療人としての高い倫理性、人間性をもって、国民に安全、安心な歯科医療を提供する」ことを掲げ、質の高い歯周治療を提供してまいりました。この事実を踏まえ、日本歯科専門医機構と協議しながら、これまで以上に国民に貢献できる専門医を世に送り出していく必要があります。専門医委員会および関係委員会の方々は事務局とともに、新たな制度への対応に膨大な時間と労力を費やしてきました。心より感謝申し上げます。これからも、専門医をはじめとする各認定制度について、皆様が安心できるような対応と情報発信を心がけます。

日本歯周病学会が歯科医師・歯科衛生士に選ばれる学会であり続け、人々の健康とQOLの維持・向上に寄与するために、執行部一同、皆様と取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

第 65 回春季日本歯周病学会学術大会開催のご案内

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている状況ではありますが、第 65 回春季日本歯周病学会学術大会を令和 4 年（2022 年）6 月 3 日（金）、4 日（土）の 2 日間にわたり、京王プラザホテル（東京都新宿区）で開催いたします。今大会のメインテーマは「歯周病学クロニクル—そして我々はどこに向かうのか—」です。これまでの歯周病学・歯周治療学を振り返り、これから私たちがそれらをどのように発展させていくのかを考える大会にしたいと思っています。

学術大会の開催方式に関しては、コロナウイルスの感染拡大状況が日々変化していくなか、不確定ではありますが、現地開催を主に Web プログラムとのハイブリッド開催の準備を進めております。

大会プログラムは、特別講演に茂呂和世先生（大阪大学大学院医学系研究科生体防御学教室教授）、塩崎一弘先生（奈良先端科学技術大学院大学学長・教授）、また、海外講演者に歯肉退縮の分類で著名な Florence 大学の Francesco Cairo 先生、歯周病と補綴治療の関係について鷹岡竜一先生（鷹岡歯科医院）にご講演いただく予定です。

シンポジウムはⅠ.「歯周外科治療のクロニクルと現状」：関 成弘先生（テキサス大学歯学部ヒューストン校歯周病学講座准教授）と岩野義弘先生（岩野歯科医院）、Ⅱ.「歯周病とインプラント周囲炎のクロニクルと現状」：口腔インプラント委員会の企画シンポジウムとして、児玉利朗先生（神奈川歯科大学大学院教授）、田中真喜先生（誠敬会クリニック）、蓮池 聡先生（日本大学歯学部保存学教室歯周病学講座）、Ⅲ.「歯周病の検査について」：口腔検査学会と初のコラボのシンポジウムを予定しています。それぞれのシンポジウムで、活発なディスカッションが行えるような企画を考えております。

認定医・専門医教育講演は牧草一人先生（牧草歯科医院）、歯科衛生士教育講演は山崎和久先生（新潟大学名誉教授）に「口腔と全身の健康を操る生態系—口腔細菌叢と腸内細菌叢の基礎知識—」（仮題）をご講演いただく予定です。さらに、歯科衛生士シンポジウムでは川本亜紀先生（日本大学歯学部付属歯科病院衛生士部門）と永石匡司先生（日本大学医学部産婦人科准教授）に「歯科衛生士に知って欲しい女性の身体の基礎知識について」の講演を企画中です。そのほか、ラン

チョンセミナー、医療安全委員会企画講演、一般講演、衛生士講演、臨床ポスターなどの企画を鋭意準備しています。まだ不確定な内容も多く、詳細は今後、学術大会ホームページでご案内いたします。

東京での本大会開催は第 61 回春季大会（2018 年 6 月）以来 4 年ぶりのことであり、会場は前回大会と同じ新宿の京王プラザホテルです。都内でもアクセスのよい場所であり、新宿駅から徒歩 5 分、地下鉄の駅からはすぐで、雨の日でも安心して来ていただけますので、多くの先生方に奮ってご参加いただけたらと思っています。しかし、ご承知のように新型コロナウイルスの感染拡大が終息しない状況から、大会の開催をご心配される方も多数おられると思います。したがって、Web とのハイブリッド開催の準備も進めながら、さまざまな感染防止対策を講じ、皆様が安心してご参加いただけるよう現地開催に向けて全力で取り組んでおります、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

無事、大会開催が実現できることを願い、全国から多数の皆様の参加を心よりお待ちしております。

大会長 佐藤秀一

（日本大学歯学部保存学教室歯周病学講座）

1. 会 期

令和 4 年（2022 年）6 月 2 日（木）、6 月 3 日（金）、
6 月 4 日（土）

2. 会 場

京王プラザホテル
〒160-8330 東京都新宿区西新宿 2-2-1
TEL：03-3344-0111

3. テーマ

歯周病学クロニクル—そして我々はどこに向かうのか—

4. 事前参加登録期間

2021 年 10 月 25 日（月）正午より
2022 年 3 月 25 日（金）正午まで

5. 参加登録費

	事前	当日
正会員（歯科医師・医師ほか）	5,000 円	8,000 円
準会員（パラデンタルを含む 上記以外）	3,000 円	6,000 円
非会員（歯科医師・医師）	10,000 円	13,000 円
非会員（上記以外）	5,000 円	8,000 円
学生（大学院生は除く）	当日のみ	1,000 円

6. 演題および抄録登録期間

2021 年 10 月 25 日（月）正午より

12 月 20 日（月）正午まで

第 65 回春季日本歯周病学会学術大会 事務局
〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台 1-8-13
日本大学歯学部保存学教室歯周病学講座
大会準備委員長：菅野直之

第 65 回春季日本歯周病学会学術大会運営事務局
株式会社日本旅行 大阪法人営業統括部 MICE 営業部
内
〒541-0051 大阪市中央区備後町 3-4-1 山口玄ビル
6 階
TEL：06-4256-3869 FAX：06-6204-1763
E-mail：jsps65@nta.co.jp

第 65 回春季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター （認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は、一般演題とは別になります。下記の要領でお申し込みいただくことになりますが、受付は学術大会ホームページからのみになりますのでご注意ください。

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細はサイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。なおオンラインでの申し込みが不可能な方は、第 65 回春季日本歯周病学会学術大会運営事務局（FAX：06-6204-1763, E-mail：jsps65@nta.co.jp）までお問い合わせください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも、筆頭発表者が学会認定資格（認定医・歯周病専門医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが、筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限りします。また、本学術大会における筆頭発表は 1 名 1 演題までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間（予定）

2021 年 10 月 25 日（月）正午より

2021 年 12 月 20 日（月）正午まで

※登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起りやすいため、それ以前の早めの

時期に登録をお済ませください。

演題申込時には学術大会ホームページにて、留意事項を必ずご確認のうえ応募くださいますようお願い申し上げます。留意事項を逸脱する行為および演題内容については、発表をお断りすることがあります。**特に「国内未承認薬・材料・機器の使用」「適応外使用」「未承認治療法」に係る症例は臨床ポスターとしての発表は不可です。また臨床研究発表では所属機関の倫理委員会等の承認、症例報告の場合は患者の同意を得ていることをポスターに明記する必要がありますので、ご注意ください。**

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（専門医の申請時、および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位）。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ 210 cm×幅 90 cm といたします。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項を学術大会ホームページにてご案内いたしますのでご確認ください。**演題番号の個所や顔写真の掲示場所、承認や同意の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください**

い。なお、演題登録後における抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。ただし、なんらかの事情で発表ができなくなった場合は運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・専門医優秀臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいたすべての発表が選考対象となります（ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外）。なお、臨床ポスター賞・ベストハイジニスト賞の事前審査をいたしま

す。詳細は学術大会ホームページの演題登録画面よりご確認ください（事前審査提出締切：臨床ポスター賞 2022 年 4 月 1 日（金）、ベストハイジニスト賞 2022 年 5 月 6 日（金））。受賞発表および表彰は次回学術大会（第 65 回秋季日本歯周病学会学術大会）にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管にご協力願います。

専門医委員会委員長 吉成伸夫

認定医委員会委員長 山本松男

歯科衛生士関連委員会委員長 坂上竜資

認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 認定歯科衛生士申請（第 34 回認定歯科衛生士認定審査）および更新

2021 年 11 月 1 日（月）：受付開始

2021 年 11 月 19 日（金）：締め切り（消印有効）

2021 年 12 月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2022 年 3 月頃：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション

2022 年 6 月 2 日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認

2022 年 6 月 3 日（金）：第 65 回春季学術大会（東京）時に合格発表

2022 年 7 月：認定歯科衛生士認定証発行

2. 専門医・指導医申請（第 66 回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新

2021 年 11 月 22 日（月）：受付開始

2021 年 12 月 10 日（金）：締め切り（消印有効）

2022 年 1 月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2022 年 3 月頃：（専門医申請者のみ）専門医認定試験（ケースプレゼンテーションと口頭試問）開催

2022 年 6 月 2 日（木）：各資格申請・更新合格者を

理事会で承認

2022 年 6 月 3 日（金）：第 65 回春季学術大会（東京）時に合格発表

2022 年 7 月：専門医・指導医認定証発行※

※日本歯科専門医機構発行の歯周病専門医認証書は 2022 年度末に行われる運用審査承認後に発行予定

3. 認定医申請（第 27 回認定医認定審査）および更新

2022 年 1 月 11 日（火）：受付開始

2022 年 1 月 28 日（金）：締め切り（消印有効）

2022 年 2 月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2022 年 6 月 2 日（木）：（申請者のみ）筆記試験会場：京王プラザホテル（東京）

申請・更新合格者を理事会で承認

2022 年 6 月 3 日（金）：第 65 回春季学術大会（東京）時に合格発表

2022 年 7 月：認定医認定証発行

⇒平成 30（2018）年 1 月 1 日より、新規認定医申請の際に、本学会が行う倫理に関する講演の受講（1 回以上）が義務付けられました。

以上の各資格の申請・更新手続き、申請書類や規則等については、学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。なお、規則・細則は改定されることがありますので、

ホームページにおける申請受付前1カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医、専門医を養成する歯科医療機関を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は2021年11月22日（月）～12月10日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては、学会ホームページ(<http://www.perio.jp>)に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。

認定医、専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会、指導医等主催による任意の研修会について、研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は2021年11月22日（月）～12月10日（金）（消印有効）です。手続きの方法等を学会ホームページ(<http://www.perio.jp>)に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。2022年3月末頃までに専門医委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

日本歯科専門医機構「歯周病専門医」認証に伴う新規・更新申請について

ニュースレター2021年第1号にてすでにご案内しましたとおり、日本歯周病学会の歯周病専門医制度は、令和2(2020)年11月2日付で日本歯科専門医機構(以下、機構とする)の専門医制度として認証されました。従来の専門医制度と変更となる点、お願い等について前号でお知らせしましたところですが、改めて会員各位にご案内します。

1. 歯周病専門医の認証書発行について

機構より認証書案が提示されました。歯周病専門医には機構より、今後この認証書が発行・送付される予定です。認証方法については、厚生労働省の指導により、歯周病専門医を一括して認証するのではなく、令和元(2019)年度以降、年度ごとに新規・更新合格者

を対象に順次行う形となります。

なお、日本歯周病学会「歯周病専門医認定証」は今後も従来どおり発行いたします。「歯周病専門医記念の楯」もご希望であれば引き続き発行いたします。

2. 機構の認証に関わる受益者負担(経費負担)について

機構の認証を受けるに際し、その審査料としておおむね10,000円/申請者が請求されています。この金額は変更される可能性があるものの、今後新規および更新の申請をする際には従来の経費に加え、機構による審査料が付加されることになります。

なお、移行措置として、令和元(2019)～5(2023)年度分については、その追加経費を学会で負担します。

認証書(専門医)



専門医登録番号は「02-本学会で付与している専門医番号」
登録年月日は機構の理事会承認日：
令和元(2019)年度新規・更新承認専門医は
令和2(2020)年10月23日
令和2(2020)年度新規・更新承認専門医は
令和3(2021)年3月4日
となる見込みです。

認証期間は各学会で管理している認証期間です。
本学会発行の認定証と同じく、
「専門医取得日～有効期限日」となる見込みです

3. 歯周病専門医制度の申請・更新要件の見直しについて

機構の指導を受けて、本年5月20日付で申請・更新要件の変更を行いました。

A) 新規・更新時において、過去5年間の機構「共通研修」2単位/年受講を義務化

※上記事由により、認定医取得以降、毎年「共通研修」2単位受講を推奨します。

※前年度に前倒し更新の手続きをする際にも、5年目の共通研修受講は必須となります。歯周病専門医更新申請書を提出する時点で5年目の「共通研修」の受講が叶わない場合、生涯研修記録簿へ「共通研修○単位受講予定」と記載してください。

B) 令和4(2022)年度以降の新規申請者より業績単位10単位を義務化

C) 教育機関常勤の専門医について：下記単位を算定対象外とする変更を実施

- ・大学や歯科衛生士学校などの教育機関における歯周病に関する講義(5単位)
- ・大学や歯科衛生士学校などの教育機関における歯周病に関する基礎実習(5単位)

※非常勤は従来どおり算定可能です。

4. 日本歯科専門医機構「共通研修」について

上記3のA)に記載したとおり、機構からの発出に基づき、令和2(2020)年度以降は、新規・更新の手続きに際し、機構が認定した『共通研修1単位×2(講演)/年度』の受講が必須となりました。

A) 機構は毎年2単位ずつの受講を求めています。

B) 本学会では会員負担を考慮し、第63回秋季、第64回春季学術大会の春季・秋季学術大会時の認定医・

専門医教育講演、倫理講演を「共通研修」認定を受けられるように講演プログラムを編成し、認定済みとなりました。第64回秋季学術大会は申請中です。これら「共通研修」に関しては、学術大会に参加登録手続きをすることにより、(もし現地での参加ができない場合でも)Webでの視聴が可能になるよう配慮します。

C) 令和4(2022)年度以降について

・春季学術大会の倫理委員会企画講演を医療安全委員会が担当する医療安全に関する企画講演に変更し、共通研修(必須項目)も取得できるような体制を構築します。秋季学術大会の倫理委員会企画講演は変更ございません。

・「共通研修」の取り扱いについては、広告可能な専門医制度を有する他学会とも連携を検討しております。

・認定医申請時の「共通研修」の取り扱いについては検討中です。すでに専門医新規申請予定のある会員におきましては「共通研修」年2単位の受講を推奨します。

5. その他

機構より、歯周病専門医申請・更新時に勤務実態・診療実績の提示を求められております。その対応に関しては申請・更新者の負担にならない方法を本学会内部で検討中です。

流動的な状況もございますので、今後、取り扱い等の変更が発生する可能性があることをあらかじめご了承ください。これからも、会員各位に対しましてはタイムリーに情報を発信させていただきます。

各賞および奨学金助成募集のご案内

下記の募集を行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1. 日本歯周病学会奨励賞(2021年度)

奨励賞は、歯周病学の発展に寄与する学術論文を発表した若手研究者を表彰するために、本学会名誉会員見明 清 東京歯科大学名誉教授の寄付金を基金として、1995年に設けられました。ヒューフレディ株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞(奨励賞楯)のほかに副賞(3万円と粗品)と楯(Hu-Friedy Award)

が贈られます。4名以内が選考されますので、学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/encouragement.shtml>

申請期間：2021年11月1日～12月10日

2. 日本歯周病学会教育賞 (2021 年度)

教育賞は、歯周病学教育の発展に寄与した取組みを表彰することを目的としております。表彰対象は、歯周病学の教育の発展に寄与する取組みです。応募資格は、取組み代表者が本学会の会員であること、過去に本賞を受けたことがないことが条件です。なお、本賞は副賞として医歯薬出版株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（表彰状）のほかに、副賞（5 万円）が贈られます。学会ホームページの応募要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/education.shtml>

申請期間：2021 年 11 月 1 日～12 月 10 日（郵送、消印有効）

3. 奨学金助成 (2021 年度募集 2022 年度実施)

日本歯周病学会は、次世代の歯周病学研究の質の向上を支援するために、若手研究者に対する奨学金助成を行います。本奨学金は、本学会が 2011 年度から基金として準備し、2013 年度に設置されたものです。助成者は、申請者から 2 名以内（1 件の上限は 100 万円）が選考されます。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご一読のうえ、若手研究者の皆様には奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/scholarship.shtml>

申請期間：2021 年 11 月 1 日～12 月 10 日

4. Young Investigator Award (2022 年度)

本賞は、学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としております。表彰対象は、本学会当該年度の日本歯周病学会 Young Investigator Award に応募し、学術大会に発表された口頭発表とします。本賞は副賞としてサンスター株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（賞状）のほかに、副賞（Sunstar Award）と賞金が贈られます。応募の条件が規定されていますので、学会ホームページの応募資格（2022 年 2 月 1 日までに掲載予定）をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/young.shtml>

申請期間：2022 年 2 月 1 日～3 月 4 日

申請書類提出用 ID : JSP-2022

5. 日本歯周病学会地域活動賞 (2022 年度)

本賞は、歯周病の予防・治療を通して、地域住民の健康増進に寄与した優れた活動業績を上げられた団体を表彰することを目的としております。表彰対象者は地域社会の歯科保健、特に歯周病治療の向上に優れた功績のあった団体です。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規定をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/regional.shtml>

申請期間：2022 年 2 月 1 日～5 月 31 日（郵送、消印有効）

歯科衛生士教育講演・臨床研修会のご案内

歯科衛生士教育講演

都道府県の歯科衛生士会と協力して行う歯科衛生士教育講演は、今年度は兵庫県と愛媛県にて開催を予定しております。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、実施方法・開催時期などについては未確定です。対応が決まり次第、ホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

臨床研修会

今年度は群馬県、福井県、愛媛県、ならびに沖縄県での開催を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により流動的です。対応が決まり次第、ホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

各賞・助成選考結果

学会賞（2020年度）

五味一博

（鶴見大学歯学部歯周病学講座・教授）



福田光男

（愛知学院大学歯学部歯周健康増進科・教授）



山崎和久

（新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野・教授）



奨励賞（2020年度）

王 祝愉

（Hospital of Stomatology, Guanghua School of Stomatology, Sun Yat-sen University, Guangdong Provincial Key Laboratory of Stomatology）

Cyclic stretch force induces periodontal ligament cells to secrete exosomes that suppress IL-1 β production through the inhibition of the NF- κ B signaling pathway in macrophages



中村 心

（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野）

Acceleration of bone regeneration of horizontal bone defect in rats using collagen-binding basic fibroblast growth factor combined with collagen scaffolds



濱本結太

(広島大学大学院医系科学研究科歯周病態学研究室)

Effect of *Porphyromonas gingivalis* infection on gut dysbiosis and resultant arthritis exacerbation in mouse model



ベストハイジニスト賞 (第64回春季学術大会)

岩佐美里

(東京都立心身障害者口腔保健センター)

侵襲性歯周炎患者に対する非外科的歯周治療とホームケアの支援



渡辺数基

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野)

Porphyromonas gingivalis impairs glucose uptake in skeletal muscle associated with altering gut microbiota



研究者育成ファンド

該当者なし

Sunstar Young Investigator Award

教育賞 (2020年度)

臼井通彦

(九州歯科大学歯学科口腔機能学講座歯周病学分野)
円滑な医療コミュニケーション構築のための歯科専門用語に関する患者理解度調査



渡辺数基

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野)

Porphyromonas gingivalis は腸内細菌叢を変化させ、骨格筋における糖取り込みを阻害する



優秀臨床ポスター賞 (第64回春季学術大会)

最優秀賞ポスター賞

長嶋秀和

(日本大学歯学部附属歯科病院)
二次性咬合性外傷を伴った広汎型侵襲性歯周炎患者の一症例



田村 光

(新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野)
エリスロマイシンによるDEL-1誘導を介した破骨細胞の制御



優秀賞ポスター賞

二宮雅美

(徳島大学大学院医歯薬学研究部歯周歯内治療学分野)
下顎第一大臼歯の重度骨欠損に対してリグロス®とサイトランス®グラニュールを併用した歯周組織再生療法を行った一症例



JSP/JACP ポスター賞

昨年 11 月に開催されました第 106 回アメリカ歯周病学会共催日本臨床歯周病学会・日本歯周病学会 2020 年大会（AAP-JSP/JACP Virtual 大会）の JSP/JACP ポスターセッションで発表いただいた演題のうち、各部門における受賞者をご紹介します。

General/Basic Research 部門

最優秀賞

田中慧介

（昭和大学歯学部歯周病学講座）

Investigation of junctional epithelial stem/progenitor cells using the multicolor lineage tracing method



General/Clinical Research 部門

最優秀賞

呉 圭哲

（東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科歯周病学分野）

The influence of periodontal disease in peripheral artery disease patients



Case Report 部門

最優秀賞

岩野義弘

（東京・岩野歯科クリニック）
New surgical approach for the treatment of periodontal intrabony defects



Dental Hygiene 部門

最優秀賞

佐藤昌美

（北海道・池田歯科クリニック）
A case of 35-year-successful periodontal treatment in chronic periodontitis



次期理事（2・3・4 項理事）選出についてのご案内

特定非営利活動法人日本歯周病学会定款細則により、次期理事の選出についてご案内申し上げます。

（特定非営利活動法人日本歯周病学会定款細則より抜粋）

第 7 条 理事の選出はこの細則に基づいて理事会が行う。

1 理事は以下の基準のいずれかを満たす者とする。

- 1) 歯科大学および大学歯学部において歯周病学を担当する教授
- 2) 3 年以上の評議員経験者で、歯周病学関連の研究教育に従事する教授
- 3) 5 年以上の評議員経験者で歯周病学関連の診療教育に従事する以下の基準のいずれかを満たす学外臨床医（主たる勤務が大学・大学病院の会員は除く）

- ①日本歯周病学会指導医の資格を有している者
- ②歯周病学領域の卒後研修などにおいて、指導的立場から歯科医師の診療および教育などに直接従事していて、業績がありその経験年数が10年以上ある者
- 4) 5年以上の評議員経験者で、歯周病学関連の診療、研究または教育に従事する歯科衛生士
- 5) 理事長の依頼により選出された以下の者
 - ①日本歯科衛生士会から推薦を得た歯科衛生士
 - ②専門医制度関連学会に関する細則第5条で承認された団体から推薦を得た同団体会員
- 2 理事の定員は以下のように定める。
前項1), 2), 3), 4), 5) に該当する理事はそれぞれ29大学各1名、15名以内、10名以内、2名以内、各1名とする。
- 3 本細則第7条1項2), 3), ならびに4) の理事の選出は、別に定める内規に基づいて行う。
- 4 理事は任期中に担当講座を辞任した場合には、辞任時に理事の任期を解くものとする。なお、第7条1項3), 4) の理事にあっては満70歳を定年とし、理事の任期中に70歳になった場合、その年度で任期満了とする。

上記のうち、第7条1項の2), 3) および4) に該当する理事につきましては、各任期の最終年度に、内規に則し次期理事の選任を行います。2) に該当する理事15名、3) に該当する理事10名、および4) に該当する理事2名を公募いたします（ただし1大学からの推薦枠は2名まで）。なお、次期理事の任期は令和5（2023）年4月1日より令和7（2025）年3月31日になっております。

なお、理事選出は理事選任に関する内規に則って行われますので、応募は現理事による自薦または他薦いずれでも結構です。また提出書類は、履歴・業績・推薦書等ですが、書式につきましては必ず学会事務局（口腔保健協会）にご確認・ご請求くださいますようお願い申し上げます。なお、業績は理事選挙の際に投票参考資料として開示されますことをあらかじめご承知願います。

応募締切は学会事務局宛に令和3（2021）年11月30日（火）消印有効《レターパックプラス（書留）また

はそれに準ずる宅配便を利用のこと》とさせていただきます。

選挙管理委員会での資格審査後、以下のスケジュールで現理事の郵送による投票、理事会による承認を経て次期理事が決定する予定です。

【次期理事選挙のスケジュール】

令和3（2021）年11月30日（火）

公募締切（消印有効）

選挙管理委員会による資格審査

令和4（2022）年1月下旬

理事候補者の公示ならびに理事投票用紙の送付

選挙権者は理事（理事選任に関する内規1-II-6-(4)）

選挙公示日は2月1日（火）

令和4（2022）年2月9日（水）

投票用紙送付締切（事務局必着）

選挙管理委員会による開票

令和4（2022）年6月2日（木）

理事会への選挙結果報告ならびに承認

令和4（2022）年6月3日（金）

総会への選挙結果報告ならびに承認

備考：次期理事長の選出につきましては、理事長候補有資格者のうち立候補頂いた理事の中から、理事会（令和4（2022）年6月2日開催）における選挙をもって選出いたします。結果につきましては、総会（令和4（2022）年6月3日開催）以降にお知らせいたします。

理事選挙管理委員長 八重柏 隆

理事選挙管理副委員長 湯本浩通

理事選挙管理委員 青山典生

菅谷 勉

田口洋一郎

長野孝俊

応募書類請求ならびに送付先：日本歯周病学会事務局
〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込 TSビル4階（一財）口腔保健協会内

TEL：03-3947-8891 FAX：03-3947-8341

日本歯周病学会会誌のご案内

前回の Newsletter 以降、刊行された日本歯周病学会会誌の掲載論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は、2015 年よりオンライン化され、J-STAGE で閲覧できます。また、発行に合わせてメールアラートを配信しておりますので、学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては、本学会ホームページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/periodo/-char/ja>

日本歯周病学会会誌 Vol. 63 (2021) No. 1

• 原著

「プラーク除去効果に影響する因子について一歯ブラシの種類、ブラッシングの習熟度の比較」

坪崎健斗、加藤智崇、岩田良子、前田祐貴、美濃直輝、小川智久

「ヒト歯肉線維芽細胞におけるカンナビノイド受容体 GPR55 の発現と GPR55 を介したカンナビジオールの抗炎症作用の検討」

三代紗季、五十嵐（武内）寛子、沼部幸博

• 教育賞

「歯科医師臨床研修における歯周病治療をベースとした歯周治療指導と認定医・専門医への誘い～臨床研修必修化から現在までの松本歯科大学病院の取り組み～」

音琴淳一、藤井健男

日本歯周病学会会誌 Vol. 63 (2021) No. 2

• ミニレビュー

「基質小胞性石灰化と歯周組織再生」

岩山智明、村上伸也

「カルシウム拮抗剤性歯肉増殖症の基礎と臨床」

尾崎幸生、吉村篤利

• 原著

「歯周病が脳梗塞及び心筋梗塞の発症に及ぼす影響：健康保険のレセプトデータを用いた検討」

石原 匠、松岡紘史、長澤敏行、古市保志、辻 昌宏、千葉逸朗

• トピック紹介

「医学・歯学分野におけるデータサイエンス教育と臨床データベースの構築」

木下淳博

• 症例報告レビュー

「限局型慢性歯周炎の 29 年経過の一症例」

若林健史

• 症例報告

「広汎型侵襲性歯周炎患者における約 15 年間の治療経過と SPT を通して学んだこと」

牧草一人、福岡拓郎、井辻佐知

「非外科的歯周治療により改善が見られた薬物性歯肉増殖症を伴う慢性歯周炎の一症例」

江部由佳梨、迫田賢二、川上克子、下田平貴子、鉛山光世、野口和行

研究者育成ファンドによる奨学金助成対象者の報告

歯周病原細菌の感染がオートファジー制御異常を介して心筋梗塞の病態に与える影響とその機序の解明

渡辺由佳

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 循環制御内科学

【背景・目的】これまでの疫学研究より、歯周病と心血管疾患をはじめとする全身疾患との関連が指摘されているが、その機序についてはいまだ不明な点が多い。

近年、細胞の新陳代謝を担う細胞内分解機構であるオートファジーの制御不全がさまざまなヒトの疾患の原因となっていることが明らかになってきた (Beau et al. *Int J Biochem Cell Biol.* 2011)。オートファジーは、細胞質成分を包み込んだオートファゴソームがリソソームと融合し、オートリソソームを形成することで包み込んだ内容物を分解する機構である。われわれはこれまでの研究成果より、代表的な歯周病原細菌である *Porphyromonas gingivalis* (P.g.) が放出する病原

因子 gingipain がオートファゴソームとリソソームとの融合を阻害することで、オートファジーの制御異常が引き起こされるのではないかと着想した。そしてオートファジーの制御異常が歯周病と心血管疾患の関わりを解明する鍵を握っているものと考え、「歯周病原細菌の感染がオートファジー制御異常を介して心筋梗塞に与える影響とその機序を解明すること」を目的に、実際にマウスを用いて病態に与える影響を検証した。

【実験方法・成果】

①心筋細胞内における歯周病原細菌の局在の検討

細胞内 pH 測定試薬でラベルした *P.g.* を培養心筋細胞に植菌し、蛍光顕微鏡で *P.g.* の局在を観察した。その結果、*P.g.* は心筋細胞内に侵入していることが確認された。

②歯周病原細菌感染によるオートファジー抑制の検討

mRFP-GFP-LC3 アデノウイルスを導入した培養心筋細胞に *P.g.* を添加した後、共焦点顕微鏡でオートファゴソームおよびリソソームを検出・定量してオートファジー抑制を評価した。その結果、*P.g.* を感染させた培養心筋細胞ではオートファゴソームとリソソームの融合が阻害されていることがわかった。

③歯周病原細菌感染によるオートファジー抑制の分子メカニズムの解明

オートファゴソームとリソソームの融合関連タンパクである VAMP8 の Flag-tagged リコンビナントタンパクを作成し、*P.g.* と反応させたところ、VAMP8 が切断・不活性化されることがわかった。また、gingipain 切断部位のアミノ酸を置換した VAMP8 変異体を作成し、gingipain を添加したところ、切断されないことを確認した。

④歯周病原細菌感染がオートファジー抑制を介して心筋梗塞の病態へ与える影響の検討

野生型マウスにカルボキシメチルセルロース (CMC) に懸濁した *P.g.* 野生株 (ATCC33277)、*P.g.* gingipain 欠損株 (KDP981)、あるいは対照群として CMC のみを経口投与した後、心筋梗塞モデルを作成した。生存期間および死因を解析し、心筋梗塞誘導から 7 日後に血圧・心拍数の測定、および心エコー検査による心機能評価を行った後、心臓を摘出して病理学的検討を行った。その結果、*P.g.* 投与群では抗 *P.g.* 血清 IgG 抗体価が有意に上昇していることを確認した。血圧・心拍数・心筋梗塞サイズに群間差は認められなかったが、*P.g.* 野生株投与群における死亡率が有意に

高く、その死因は心破裂であることが明らかとなった。また、摘出した心臓からタンパク質を抽出し、ウェスタンブロット法を行ったところ、*P.g.* 野生株投与群の梗塞心筋では VAMP8 が切断されていた。一方、*P.g.* gingipain 欠損株投与群の心筋では VAMP8 が切断されていなかった。さらにオートファジーの基質である p62 のレベルおよびオートファジーマーカーである LC3-II は、*P.g.* 野生株投与群では CMC 投与群および *P.g.* gingipain 欠損株投与群と比較して有意に上昇していた。

【考察】本実験結果より、歯周病原細菌 *P.g.* から分泌される gingipain は、VAMP8 を切断・不活性化することでオートファゴソームとリソソームの融合を阻害し、オートファジー制御不全を惹起して心筋梗塞の病態を悪化させることが示唆された。現在、CRISPR/Cas9 によるゲノム編集技術を用い VAMP8 の gingipain 切断部位を改変したノックインマウスの作成を進めている。今後はノックインマウスを用いて心筋梗塞モデルマウスを作成し、*in vitro* 実験の結果に基づいた仮説が正しいか検証していく予定である。

抗スクレロスチン抗体投与による歯周組織の再生

前川祥吾

Department of Oral Medicine, Infection, and Immunity, Harvard School of Dental Medicine

【背景】スクレロスチンは、主に骨細胞から分泌される糖タンパク質で、Wnt シグナルを阻害することにより骨形成を抑制する。スクレロスチンの中和抗体による薬理学的作用はさまざまな臨床試験によって検証され、ヒト抗スクレロスチン抗体 (Scl-Ab) であるロモソズマブは、骨折リスクの高い骨粗鬆症患者に対する治療薬として 2019 年に米国食品医薬品局 (FDA) から承認された。

過去のわれわれの動物実験において、Scl-Ab の全身投与により歯槽骨および大腿骨の骨量・骨密度は改善し、実験的歯周炎を惹起させた後の歯槽骨の回復を報告した。さらに、Scl-Ab の全身投与はインプラント周囲の骨欠損部における骨再生やオッセオインテグレーションを促進することを認めた。しかし、歯周組織再生における Scl-Ab の効果や、Scl-Ab を局所的に投与することの有効性はまだ確認されていない。本研究では、ラットに実験的歯周組織欠損を作製し、ポリ乳酸-グリコール酸 (PLGA) マイクロスフィア (MS) を用いた低用量の局所投与と Scl-Ab の全身投与との

比較を行った。

【材料と方法】局所投与に用いる MS を作製し、Scl-Ab を含有させた Scl-Ab MS と薬液を含有しない MS の大きさ、表面性状を電子顕微鏡にて確認した。また *in-vitro* における Scl-Ab の徐放量を計測した。6 週齢の Sprague Dawley 雄ラットを用いて、歯周組織欠損を下顎臼歯部右側頬側に作製した。歯周組織欠損のみのコントロール群、薬液を含有しない MS を欠損部に局所投与した Empty MS 群、Scl-Ab を 125 μ g 含有させた MS を欠損部に局所投与した Scl-Ab MS 群、Scl-Ab (25 mg/kg) を皮下注射にて週 2 回全身投与させた Systemic Scl-Ab 群の 4 群において実験を行った。術後 3 週で CO₂ の過剰投与により安楽死させ、下顎臼歯部を採取し、10%ホルマリン・リン酸緩衝液で 3 日間固定した後、70%エタノールに置換した。その後、マイクロ CT 解析・組織形態学的解析を行った。術者は術式に関し盲検化され、評価者においてもマイクロ CT 解析および組織学的解析において盲検化して解析を行った。手術中に明らかに歯髄が露出していた 1 匹のラットは、本実験から除外した。外科手術を受けた最終的なラット数は 47 匹であり、その内訳はコント

ロール群が 12 匹、Empty MS 群が 12 匹、Scl-Ab MS 群が 12 匹、Systemic Scl-Ab 群が 11 匹であった。

【結果・考察】Scl-Ab MS と Empty MS の粒子の大きさは、それぞれ $63.75 \pm 14.03 \mu\text{m}$ と $36.33 \pm 4.73 \mu\text{m}$ (mean $\pm$ SD) であった。*In-vitro* の解析により、最初の 24 時間で約 20% の Scl-Ab が MS から放出され、約 50% の Scl-Ab が 3 週間以内に徐放された。その後、リン酸緩衝生理食塩水中で 18 週間にわたって Scl-Ab の放出が持続していた。*In-vivo* の実験では、Systemic Scl-Ab 群にて、マイクロ CT 解析および組織学的解析において有意な歯槽骨の再生が認められた。また有意ではないものの、新生セメント質の形成が認められた。しかし Scl-Ab MS 群では、コントロール群や Empty MS 群と比較して欠損部における歯槽骨再生および新生セメント質の有意な形成は認められなかった。本研究により、Scl-Ab の全身投与は歯周組織欠損部における歯槽骨の再生を有意に促進し、セメント質の形成など歯周組織再生に寄与する可能性が示唆されたが、MS を用いた局所投与では歯周組織の再生に十分な効果が得られなかった。

第 64 回春季学術大会時の Web 「若手研究者の集い」開催報告

本来であれば、福島大会の準備委員長を務めていただいた大島光宏先生が世話人ですが、昨年末に急逝なさったため（ニュースレター 2021 年第 1 号ご参照）、筆者が第 64 回春季学術大会における「若手研究者の集い」の世話人を代理で務めさせていただきました。

昨年の福島大会ではコロナ禍で急遽 Web 開催に変更したため、誌上開催のみになりました。盛岡大会における「若手研究者の集い」の現地開催も危ぶまれる状況でしたので、前・学会あり方委員会委員長の高柴正悟教授より Web 開催に変更してはどうかというアドバイスをいただきました。

幸い、学会事務局の Zoom を利用できることになり、Web 学会と同様に Web 「若手研究者の集い」の準備を進めました。通常の 2 時間枠で計画し、開会の挨拶、2 名の演者による 30 分程度の動画を視聴後に質疑応答という形をとり、座長を岡山大学の大森一弘先生にお願いしました。学会からの支援金により参加費は無料と決め、各大学の担当者にメール配信して参加を呼

びかけ、最終的に 80 名ほどの参加をいただきました。

講演 1. 歯周病と糖尿病を関連づける新たなキープクター「インスリン作用」～ボストンでの 3 年間の留学生活（新城尊徳先生・九州大学大学院歯学研究

院口腔機能修復学講座歯周病学分野）
Joslin Medalist Perio Study および血管平滑筋特異的 IR 欠損マウスを用いた実験的歯肉炎モデルにおける研究に加えてボストンでの生活ぶり、サンスター株式会社の手厚いサポート体制の説明があり、海外留学を考えている先生方には大変興味ある内容でした。サンスター社の高世尚子様もご参加いただき、質疑応答の際には、追加で情報提供をいただきました。筆者は 1993 年から 1995 年まで英国グラスゴーで研究生生活を送ったのですが、感受性、体力と気力が充実しているときの体験は、その後の仕事人生の大きな支えになると思います。

講演 2. 歯根膜細胞はエネルギー代謝機構を利用して分化能を維持している（鈴木茂樹先生・東北大学病



院歯周病科)

こちらは留学時のお話はなく、歯根膜細胞のPPAR γ によるエネルギー代謝経路制御が細胞機能に及ぼす機序に関するバリバリの基礎研究のご発表でした。途中、動画が動かなくなるハプニングもありましたが、動画が再開されるまで、機転を利かせて鈴木先生がライブで解説してくださいました。

お二人の演者による素晴らしいご発表の後、座長の大森先生の司会で質疑応答に移りました。初めての試みで、なかなか活発な質疑応答とまではいきませんが、通常開催と同様に、ビールやワインを飲みながらのフランクな歓談が重要であることを再認識しました。今回はプラン A (通常開催) からプラン B (Web開催) に変更しましたが、プラン C (パソコンの前でビールを飲みながら気楽に参加する) が良かったのかもしれません。

この「若手研究者の集い」は筆者の元上司である野村慶雄先生が発案して倉敷大会 (1989 年、大会長：村山洋二教授) 時にスタートした有志の会です。当時は

理事会 (教授) に対立する集まりと捉えられ、一部の理事から反対意見もあったそうですが、徐々に会の意義が理解され、参加校が増えていったと伺っています。この倉敷大会は筆者にとって地元開催、学会初デビューに加えて特別講演の演者 G. J. Seymour 教授とポスター内容についてディスカッションすることを命じられ、毎日夜遅くまで準備に追われた記憶に残るイベントでした。

鶴見大学の長野孝俊先生から世話人を引き継ぎ、なんとか役目を果たせました。大会長の八重柏 隆教授ならびに今回の「若手研究者の集い」Web 開催にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます (写真)。来春の東京大会では引き続き、盛岡大会の準備委員長 (佐々木大輔先生) に世話人をお願いしたいと思います。「継続は力なり」と申します。本会が今後も引き継がれ、日本歯周病学会発展の礎として貢献されますことを祈念いたします。どうぞよろしく願いいたします。

世話人 奥羽大学 高橋慶壮

— 編 集 後 記 —

新型コロナウイルス感染が日本に蔓延してから1年半以上経過しましたが、一向に収束する気配をみせず、いまだ猛威を振っています。今回の執筆にあたって過去のニュースレターを読み直してみましたが、前3号すべて新型コロナウイルスに触れた内容があり、トップトピックスであり続けています。2年前にはこのような世の中になるとは全く想像もつきませんでした。まさに一寸先は闇です。この号を实际読むときにはどのようなことになっているか、さらに次の号が出るときにはどうなっているのか、全く見当もつきません。ただただ一刻も早く収束し、マスクなしで自由に会食を楽しめる日が来ることを心から願うばかりです。

さて、今回お届けするニュースレターは、齋藤 淳副理事長の「選ばれる学会であり続けるために」から始まり、第65回春季日本歯周病学会学術大会の案内（大会長 佐藤秀一先生）、認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ、日本歯科専門医機構「歯周病専門医」認証に伴う新規・更新申請について、各賞および奨学金助成の案内と選考結果、さらに次期理事選出についての案内などが掲載されています。非常に重要な内容も含まれていますので、しっかりとご確認ください。

最後になりますが、今年の10月には名古屋での秋季学術大会（大会長 三谷章雄先生）が予定されています。8月現時点では、新型コロナウイルスがものすごい勢いで広まっており、先の見通しが全く立たず、大会長の苦悩が窺えます。どのような形の開催であれ、多数の学会員の皆様が参加し、有意義な大会になりますことを祈念しております。

（広報委員 藤田 剛）